

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	1158 精神保健デイケア事業	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
		目	01	保健衛生総務費
基本 施策	05 障がいのある人の自立した生活を支える	細目	240	保健事業
		細々目	56	精神保健デイケア
行革大綱の重点事項番号		7		
担当部署	コード	753000		担当者 氏名
	名称	青山支所住民福祉課		
		服部 恵子	連絡先	52- 2280 (内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	精神疾患で通院中の人	※対象件数
成果(どうする)	精神保健デイケアを実施し、社会復帰訓練、スポーツやレクリエーション、社会適応訓練等を行うことで、事業利用者は居宅生活が継続でき、自立、社会復帰が図られる。	
根拠法令・要綱等	伊賀市精神保健デイケアふれんどつつじ実施要綱	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	・自立と社会復帰を図るために、社会適応訓練や生活訓練を行った。 ・音楽療法士による音楽療法を行った。 ・生活や心身の健康等に関する相談を行い、心身の健康促進を図った。 ・事業利用者の送迎は、シルバー人材センターに運行業務委託した。	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設」の建設「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設」の建設「施設」の管理・運営のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
精神保健デイケアふれんどつつじ事業開催回数		回	目標	35	目標	35
			実績	35	実績	36
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
参加者数		事業参加により、いろいろな交流を通じ、社会復帰の意思の向上が図られる。	人	目標	250	目標	250
				実績	266	実績	171
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計(A)	75		78		79		79	
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0		0		0		0
	一般財源	75		78		79		79
事業投入人件費(B)	1.5人	10,800	1.5人	10,800	1.5人	10,800	1.5人	10,800
フルコスト(A)+(B)		10,875		10,878		10,879		10,879

事務事業の評価(Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
有効 性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
達成 度	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
効果 率	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
効果 性	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
効果 性	予算の繰越の有無	無
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効果 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	○
効果 性	【事業名】	
	受益者負担を求められることができる事業である。	
効果 性	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	医療機関等他のデイサービスは多数の利用者を対象に実施しているが、保健センターにおいては少人数のため、気軽に相談等ができるという面での利用者がある。今後は、参加者主導の推進事業内容も検討していく必要がある。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の 取組状況	自立支援法により、精神障がい者においても、利用可能なサービスが整備されており、利用者数の減少が見られる。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	森本 君枝
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	デイサービスを行うことにより、利用者の心の安定や社会的習慣の維持、向上に繋がるため必要な事業である。
現時点における 課題、その他	保健センターにおいては、利用者が少人数のため、気軽に参加、相談等ができるという面での利点があるが、近頃は、他のサービスへの移行もあり、さらに利用者の減少がみられる。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	民生委員協議会の9月定例会に、事業の周知を図る。来年度以降、さらに利用者の減少が進む場合は、利用者の他のサービスの利用について、本人、家族等の希望を聴きながら、障がい者支援センターに相談するなどの対応をするとともに、保健センターでのデイサービスの継続について検討する。